

28台が参加のS2クラスは雑賀崇選手が優勝。



会心の走りを見せた雑賀崇インプレッサが逆転V!

西日本の2018年を締め括るダートトライアルがJMRC西日本ダートフェスティバルである。中部地区以西の5地区の選手が一堂に会して盛大に催されるものだ。今回で22回目を迎える歴史ある大会は、11月17～18日に福井県南越前町にある「オートパーク今庄」で開催され、110人の参加者を集めた。

N1クラスは全日本同様のインテグラやミラージュ等のFF車がメインだが、ここに近畿地区のみ成立している2000cc以下の四輪駆動車が加わる異種混同のクラスで、最多の29台がエントリーとなった。第1ヒートは全日本チャンピオン経験者の二世の三枝聖弥選手がベストタイムを出し実力を見せたものの、第2ヒートで「今庄は苦手」と満足できない走りでも4位に終わってしまった。優勝したのはブーンを駆る近畿の辰巳浩一郎選手だ。「2本目は失敗なし」とこちら



S2クラス/1.宇野研三選手がクラス2位。2.クラス3位の久保川裕行選手。3.S2クラス入賞の皆さん。



は満足の走りでもニコリしていた。一番悔しかったのが3位の藤嶋義孝選手。練習走行から好調で第2ヒートも前半区間はトップタイムをマークしたが、最終ターンでシャフトが折れて万事休す。トラブルがなければ優勝もあっただけに残念そうだった。2位の松岡剛志選手はインテグラに乗り換えてから成績が上がりなかったため「初入賞でとても嬉しい」と喜んでいて。

N2クラスで10台のエントリーの頂点に立ったのはラストゼッケンの伴和則選手。「2本目は

進入は抑え気味にして、ストレートでのスピードを上げよう」と心掛けて走りました。今季はシフトミスばかりだったので初優勝は嬉しい」と喜んでいて。2位は第1ヒート5番手からジャンプアップした矢木野昌俊選手で「伴さんを抜くのは…予定通りの2位です」と苦笑いだった。

RWDクラスの第1ヒートは西尾賢治選手が唯一1分33秒台を出しベストタイム。注目の高校生ドライバー大竹直生選手はスピンを喫し11番手と振るわず。大竹選手の第2ヒートはスラ



SCDクラス/4.優勝はオーバーオールでぶっちぎりの速さを見せた大谷皇就選手。5.2位は岡田誠選手。6.五味直樹選手が3位。7.SCDクラス入賞の皆さん。





8.2本目に1分30秒303を叩き出し、見事RWDクラスで優勝した大竹直生選手。9.1本目を上回るタイムを叩き出したが約1.4秒届かなかった前田蔵人選手がRWD2位。10.RWD

クラスの3位はシルビアを駆る酒井龍一選手。11.竹中雅哉選手がS1クラス2位。12.S1クラス3位は上土井康朗選手。13.前田幸男選手がS1クラス優勝。14.N2クラスは伴和則選手が優勝。15.矢木野昌俊選手がN2クラス2位。16.N2クラス3位の澤田恭昌選手。17.RWDクラス入賞の皆さん。18.S1クラス入賞の皆さん。19.N2クラス入賞の皆さん。20.N1クラス入賞の皆さん。21.PN1+クラス入賞の皆さん。22.辰日浩一郎選手がN1クラス優勝。23.N1クラス2位は松岡剛志選手。24.藤嶋義孝選手がN1クラス3位。25.PN1+クラスは島田正樹選手が優勝。26.深谷文彦選手がPN1+クラス2位。

JMRC 地区対抗戦



2018年の地区対抗戦は近畿地区が優勝を掴んだ。

イドからグリップを意識した走りに切り替えて見事ダートラ初優勝を飾った。2位には「年齢が半分以下の選手にやられて…。勢いがなかった走りでしたね」と反省する前田蔵人選手が入賞した。3位は第1ヒート7番手からジャンプアップした酒井龍一選手が入賞し、西尾選手は4位まで順位を落とす結果となった。

S1クラスも第1ヒートは上土井康朗選手がベストタイムを出しながら3位に落ちてしまった。優勝はMR2を駆る前田幸男選手。「良い走りではなかったけれど勝てて良かった。滑る路面を踏みぎった感じがですね」と優勝のコメント。全日本もSA1クラスでMR2が優勝しているので、この今庄とFRは相性がいいかもしれない。2位はFTOでエントリーの竹中雅哉選手。「前半は良かったけれど後半はタイヤを上手く使いこなせなかった。その差が出ましたが走りは満

足してます」と喜んでた。

S2クラスは28台がエントリー。練習走行から好調だったのが宇野研三選手だ。第1ヒートもかつての全日本チャンピオン三枝光博選手にコンマ2秒差を付けてトップに立っていた。第2ヒートで宇野選手は前半区間でプレッシャーからシフトミスをし、第1ヒートのタイムを上回ることができず2位に終わってしまった。三枝選手は前半区間でベストタイムを叩き出したが、後半の区間でギャラリーが喜ぶドリフト走行を見せるもタイムが伸びず4位に終わってしまったが「楽しんで走ったから満足」と笑顔だ

った。優勝したのは雑賀崇選手。「ずっと調子が悪かったけれど今回は「走り切ったー」と充実感がありました。これで負けたら仕方ないって」と喜んでた。3位は「ちょっと悔しいかな」と語る久保川裕行選手が入賞した。

SCDクラスはRWDクラスと同様に高校生ドライバー大谷皇就選手が優勝。大谷選手の父親は18年前に九州で開催されたこの大会で優勝しており、親子二代での制覇となった。2位の岡田誠選手は「シフトミスしてフルターンも止まったし要修行です。高校生に負けたのは悔しい」と悔やんでいた。

親子3人でダートラ参戦！これからの活躍に期待!!

1996年にミラージュを駆り、AIIIクラスで全日本チャンピオンを獲得した三枝光博選手。その当時に生まれた息子2人に加え、親子3人が今回のダートラに参加した。結果は父親がS2クラス4位、息子たちはそれぞれ同じマシンでN1クラスにエントリーして長男・聖弥選手(23歳)が4位、次男・聖博選手(21歳)が12位。聖弥選手は「練習できていなかったのが一番の敗因。走りがグダグダでした」と反省。聖博選手は「前半の細かいターンがうまく走れなかったで、今後練習して上を目指したい」と語っていた。2018年は長男が地区戦シリーズ4位、次男が5位に終わったが、まだまだこれから。父親の指導の下、大暴れして欲しいものだ。

